

地域の病院 将来像は

医療構想の必要性 3氏に聞く

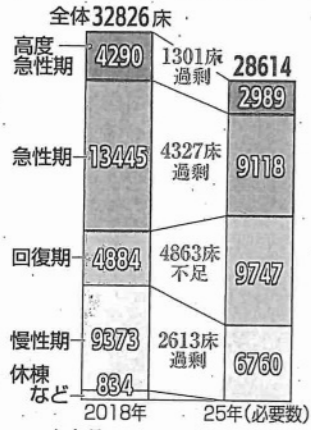
これからの病院の在り方を示す「地域医療構想」。9月に厚生労働省が、急性期病床の「再編・統合」の検討を必要とする424の公立・公的病院の名前を公表したところ、地域の医療関係者や自治体に驚きや困惑が広がった。この地域医療構想はなぜ必要なのか。この構想に詳しい3人に聞いた。(衣川圭)

OECD36カ国と比較した日本の医療の姿

GDPに占める医療費の割合 日本 10.9% (10位) OECD 8.8	人口1000人当たりの 現役医師 日本 2.4人 (10位) OECD 3.5	人口1000人当たりの 現役看護師 日本 11.3人 (10位) OECD 8.8
人口1000人当たりの 病床数 日本 13.1床 (10位) OECD 4.7	平均在院日数 日本 16.2日 (10位) OECD 7.7	人口100万人当たりの CTの数 日本 112台 (10位) OECD 27

※OECD「図表で見る医療2019年版」から

広島県の病床数



※広島県の地域医療構想と病床機能報告(速報値)から

「急性期」病床減らし「回復期」増やす

地域医療構想とは

そもそも地域医療構想って何だろう。見据えているのは2025年だ。団塊世代の全員が75歳以上となり、医療と介護のニーズが膨らむ。このタイミングの医療ニーズを踏まえて、構想は地域ごとに目指すべき医療提供の形を示す。

国は、患者の状態に合った病床で、より良い医療サービスを受けられる体制をつくる必要性を指摘する。言い方を換えると、重症患者向けの病床に、そもそも集中的な治療を必要としない患者が入院しているケースがあるということだ。

構想では、病床の機能を①集中治療が必要な「高度急性期」②一般的な手術などをする「急性期」③リハビリなどをする「回復期」④長期入院の「慢性期」に分ける。現状は、全国的に急性期が過剰で、回復期が足りない傾向がある。

では、構想が想定する地域と

は、どういった範囲なのか。広島県の場合は、広島▽広島西▽呉▽広島中央▽尾三▽福山・府中▽備北の七つ。それぞれの区域の地域医療構想調整会議で、現状と将来を見据えて話し合い、病床数の適正化を図ることが求められている。

広島県の構想で25年に必要とした病床数は計2万8614床。18年の病床数(速報値)と比べると212床少ない。機能別にみると、高度急性期は1301床、急性期は4327床が過剰で、回復期は4863床

毎年1兆円ずつ増加 医療費抑える対策が急務

県立広島大地域医療経営学プロジェクト研究センター
西田在賢センター長 65



にしだ・ざいけん マツキンセンター・アンド・カンパニー一動務後、電子カルテ開発に携わる。川崎医療福祉大教授、静岡県立大教授などを経て、18年から現職。専門は医療経営学。

43兆円にまで膨らみ続けた国民医療費を「もったいない」と見ているだけの時期はどうに過ぎました。この40年、毎年だいたい1兆円ずつ増えています。保険料や患者の窓口負担で賄われていたのは6割で、残りは国債や税金の公費で補っています。歯止めをかけるために欠かせないのが地域医療構想です。

なぜなら日本の医療の一番の問題は、病院と病床が多すぎる点だからです。1995年の

医療法改正で、実質的に地域ごとに病院の開設や増床を制限することを決めました。この頃から医療提供の体制はおかしいという課題意識はあったのです。しかしこの時、何が起きたかというと「駆け込み」による病床の急増でした。

病床があっても使わないと収率は上がりません。その結果医療の提供する側が無理やり需要をこらへることも起り得ます。医師から治療法などを提案をされる、ほとんどの患者

は「はい」といっしかりませんよね。

こうして無駄な病床が増えたよつです。いざいざ無駄を廃し、機能別に適正な病床数にしなければいけません。

高齢化や、高額な薬の登場といった医療の高度化の影響はもたらんありますが、無駄な医療も医療費を押し上げています。福祉国家を掲げた英国は1976年、社会保障費が膨れ上がった財政破綻しました。日本の借金は既に100兆円に達し、

国民総生産(GDP)の2倍という驚愕的な状況です。

そもそも日本は諸外国と比べて病床が多すぎます。千当たりの病床数は1.1床で米国の4倍、英国の5倍です。欧米と同じように、病院は医療的に必要に応じてだけ入院するという原則に守らなくてはなりません。欧米には地域のクリニックが病院での治療が必要かどうかを判断するのが一般的です。

国が424病院を公表したのは、高齢社会を持続する一つの道です。

かもしれません。それだけ対策のリミットは迫っています。財政破綻するのを得なくする医療を制限するを得なくするからです。一定の年齢になると、医療保険で使える薬を減らされることもあり得るのです。

地域医療構想を実現することで、医療の破綻を防ぎます。それが地域に合った形で必要な医療や介護、生活支援などが確保される「地域包括ケア」の仕組みは、高齢社会を持続する一つの道です。